

産学協力研究委員会「日本におけるケミカルバイオロジーの新展開第 189 委員会」  
特別事業（知識や技術の伝承等とりまとめ）  
「ケミカルバイオロジーの発展に貢献してきた化合物」  
平成 28 年度 第 3 回編集会議 議事抄録

日時：平成 29 年 3 月 1 日（水）13：00-14：00

場所：石原産業㈱ 本社ビル 5F ホール

〒550-0002 大阪市西区江戸堀 1-3-15

出席者：長田 裕之(理化学研究所) 上村 大輔(神奈川大学) 永野 栄喜(住友化学㈱)

掛谷 秀昭(京都大学) 町谷 幸三(日本農薬㈱) 吉田 稔(理化学研究所)【敬称略】

事務局：大高 潤之介(理化学研究所) 山口 直美(理化学研究所)

(学界委員 6 名 産業界委員 2 名)

議事内容：

1. 前回 第 2 回編集委員会（平成 28 年 12 月 7 日）議事録【資料 1】の確認。

Springer Nature 出版の“Bioprobes: Biochemical Tools for Investigating Cell Function”を参考にして、特別事業（知識や技術の伝承等とりまとめ）「ケミカルバイオロジーの発展に貢献してきた化合物」の刊行物（書籍）を作成することが確認された。

Springer Nature 担当者に確認し、JSPS 委員会活動の為に使用し、販売等の利益を伴わないものであれば利用可能との回答を得ていることが報告された。

2. 執筆及び取りまとめについて【資料 2】

・執筆者

当委員会の学界員は全員、産業界員は希望者のみとすることが確認された。

外部執筆者として、下記先生方にもご参加いただくことが決定された。

京都工芸繊維大学応用生物学系 教授 片岡孝夫先生

筑波大学生命環境科学研究科生命機能科学専攻 准教授 臼井健郎先生

理化学研究所 環境資源科学研究センター 技術基盤部門 分子構造解析ユニット

ユニットリーダー 越野広雪先生

・スケジュールについて

2017 年 3 月、4 月上旬 執筆依頼

2017 年夏頃 原稿提出〆切

2017 年 12 月頃 編集作業終了

2018 年 1 月頃 校正依頼

2018 年 3 月頃 全体原稿チェック

2019 年度 印刷・製本・出版

・取りまとめについて

原稿を回収後、編集委員は収集原稿約 40 本のうち、原稿 5 本程度をチェックすることが決定された。

3. 執筆内容、方針について

前回、天然物を中心に、農薬・医薬・食品に関する化合物をまとめることが決定されていたが、上村委員より、産業界員が執筆するにあたり、天然物に縛らない方が良いとの意

見が出され、後半部分の伝承に係る箇所は天然物とし、前半部分は自由度を高め、合成物も可能とすることとした。

一人1化合物に限らずレビュー的な記載方法も可能とし、1～5頁まで自由執筆とすることにした。

内容は生理活性物質の知識や技術の伝承に合った内容、若い人達に残したい知識を自由執筆とすることが決定された。

#### 4. 執筆依頼について

3月末から4月中旬にかけて、タイトルと箇条書きの章立てを確認する依頼状を発送することとなった。発送後、2週間以内を目途にタイトルを収集、重複の確認等、編集委員で調整をすることとなった。

#### 5. 平成28年度 実施報告書についての確認。【資料3】

文責：山口（事務局）